

1 学校教育目標	
教育目標	Ⅰ 豊かな人間性や社会性を育成し、多様な社会を主体的に生き抜く資質や能力を養う Ⅱ 基礎力や汎用力を育み、知的好奇心をもって生涯にわたり学び続ける意欲を高める Ⅲ 自らの心と身体を大切に、健康や安全を意識して活力ある生活を送る基礎を培う
育てたい生徒像	Ⅰ 豊かな人間性や社会性を備え、自らの意志で未来を拓こうとする高い志をもつ生徒 Ⅱ 学ぶ喜びを知り、基礎・基本の上に幅広い応用力を培い、自ら伸びようとする生徒 Ⅲ 勉学や部活動を通して心身ともに成長し、他を思いやり、社会に貢献できる生徒
めざす学校像	Ⅰ 人間力と自己有用感を向上させ、ともに夢を語り合える学校 Ⅱ 知的好奇心を大切に、主体的な行動力と汎用力を育む学校 Ⅲ 活力と規律ある教育活動を展開し、地域から信頼される学校
今年度の重点目標	○「知」「徳」「体」の調和を図り、主体性を伸ばす教育活動の展開

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
【学習指導】	生徒の学習時間確保や基礎学力向上のために様々な取組を行い、徐々に成果が上がっている。生徒の主体的な学習習慣については、個人差が大きい。生徒の受験体制の構築のため、1年次より3年間を見通した学習指導の在り方、教育課程の検討等を学校全体で取り組むことが重要である。
【生徒指導】	生徒による自治意識の醸成をめざし、生徒会、各種委員会活動の活性化を図ってきた。生徒の意識も向上しており、主体性と協調性を育むことができるよう更なる取組を推進する。
【進路指導】	進路の年間計画に従って、模試・課外・「総合的な学習の時間」の内容を企画、実施し、平成27年度卒業生の国公立大学合格者は37名で、前年並であった。課外については生徒の参加を促進するとともに、「総合的な学習の時間」については内容を見直し充実させる必要がある。また、保護者との連携を強化して生徒の進路実現を目指していく必要がある。
【学校運営】	教育目標の達成に向けて様々な行事や活動に取り組んでおり、地域への情報発信も進んだ。授業時間の確保に一層努めるとともに、諸行事の効果的な運営が課題である。

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題	
【学習指導】	朝学や週末課題、長期休業中の課題や課題考査など、様々な取組により家庭学習時間の増加を図るとともに、生徒の主体的な学習習慣が身につくようサポートする。特に大切な中学校から1年次へのスムーズな移行に向けて重点的に取り組む。また、成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と連携し、指導計画を検討・対応する。
【生徒指導】	生徒会、専門委員会の活動の更なる活性化を図り、他者との協働を通して、自治意識を育成する。また、生徒の抱える問題を早期に発見し対応できるよう、教育相談体制の充実を図る。
【進路指導】	「総合的な学習に時間」は生徒の実態に即して内容改善を実施し、より深めていく。また、保護者との連携を強化する取組を進める。
【学校運営】	本校のよさを積極的に発信し、地域の信頼を高め、入学志願者の増加をめざす。また、諸行事の検証を行い、工夫・改善を図る。
<チャレンジ目標> ○「学年＋1時間以上」の家庭学習 ○ケータイ・スマホ使用のマナーアップ	

4 自己評価				5 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	・生徒の基礎学力の定着	・成績不振科目のある生徒を一学期から把握し、教務として教科・担任・学年と連携して早めの指導・支援を行う。 ・生徒の状況を把握し、補習等については各教科が実施できるような体制を整える。	4 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の5%以内であった。 3 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の5～10%であった。 2 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の10～15%であった。 1 各学期末考査の欠点保有者数が全生徒の15%以上だった。	2	教科・担任・学年と連携し、1学期から成績不振科目のある生徒を把握し、保護者・本人との面談等の指導を行った。複数の科目で欠点をもつ生徒に重点的に指導・支援している。 欠点の解消のために、各授業担当者が生徒の状況を把握し、授業の工夫や課外・補習等の実施に努めている。	・学習状況の定着度が多様化する中、生徒一人ひとりの学力向上に向けた指導は大きな課題であるが、これまでの取組を検証し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒の学習習慣の定着を推進して欲しい。	B
	・教職員の指導力の向上	・生徒による授業評価を実施する。生徒の学習意欲、学習状況を把握し、適切な授業の実施に向けて工夫や改善を行う。	4 年間2回以上実施し、生徒の学習状況の把握、授業の工夫改善に効果があった。 3 年間1回以上実施し、生徒の学習状況の把握、授業の工夫改善に効果があった。 2 一部に実施できない教科、個人があった。 1 全教科実施しなかった。	4	生徒による授業評価を第1学期末、第2学期末の2回実施した。生徒の学習意欲、学習状況を把握するとともに、授業に対する評価・要望等を把握し、適切な授業改善に取り組んだ。	A	
	・公開授業による研修、教員間の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	・公開授業による研修、教員間の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	4 公開授業期間(2週間)を設定、全教員が公開授業を実施し、さらに他教員の授業を3回以上参観して、授業の工夫改善に取り組んだ。 3 公開授業期間(2週間)を設定、全教員が公開授業を実施し、さらに他教員の授業を2回以上参観して、授業の工夫改善に取り組んだ。 2 公開授業期間(2週間)を設定、全教員が公開授業を実施し、さらに他教員の授業を1回以上参観して、授業の工夫改善に取り組んだ。 1 公開授業期間(2週間)を設定、全教員が公開授業を実施し、授業の工夫改善に取り組んだ。	4	公開授業期間(2週間)を9月下旬から10月上旬に実施した。 来校者アンケートや教員間の相互授業参観・研修などを通して、情報交換により授業力の向上に取り組んでいる。		
進路指導	・学力の向上や進路目標実現のため、進路ガイダンスの充実、また課外の効果的な活用を図る。	・発展的学習内容を定着させるため、課外の効果的活用を図る。	4 学期中の課外の出席率が75%以上であった。 3 学期中の課外の出席率が65%以上であった。 2 学期中の課外の出席率が55%以上であった。 1 学期中の課外の出席率が45%以下であった。	4	1学期の課外の出席率は、平均84%であった。 2学期の課外の出席率は、平均89%に上昇している。	・PTAに進路部会が設置され、連携した取組が進んだことは大きな一歩である。今後、保護者の参加を進め、生徒・保護者の進路意識の向上を図り、大学進学の実績が高まるよう、継続的な取組を期待したい。	A
	・進路に関する情報を保護者に提供する取組の強化により、生徒の望む進路の実現の一助とする。	・保護者が参加出来る進路講演会等の行事の充実を図る。	4 保護者が参加出来る進路講演会等を5回実施した。 3 保護者が参加出来る進路講演会等を4回実施した。 2 保護者が参加出来る進路講演会等を3回実施した。 1 保護者が参加出来る進路講演会等を2回以下しか実施しなかった。	4	各学年の進路講話、PTA進路部会と協力して実施した保護者対象の進路講演会の他、山口大学医学部保健学科説明会、九州工業大学説明会を実施した。		
	・進学校としてのキャリア教育を充実していく。	・「総合的な学習の時間」の活用により、自己にふさわしい在り方生き方や進路について考察する学習活動を展開する。	4 各学年ともほぼ計画通り実施した。 3 各学年とも80%程度計画通り実施した。 2 各学年とも60%程度計画通り実施した。 1 各学年とも40%程度しか計画通り実施できなかった。	4	1年生は文理コース説明会や進路講演会、大学訪問、2年生は出前講義、進路講演会、3年生は進路講演会、小論文講座、面接講座など予定通り実施し、生徒の進路意識を高めるよう努めた。		
生徒指導	・生徒の主体性を尊重し、生徒が自ら考え、他者と共働しようとする姿勢を育む。	・「生徒会」や「各種委員会」を中心に、学校生活の課題を見つけ、その解決を図ることにより、自治意識を高める。	4 「意識向上につながった」と思う生徒が70%以上であった。 3 「意識向上につながった」と思う生徒が60%以上であった。 2 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以上であった。 1 「意識向上につながった」と思う生徒が40%以下であった。	3	新しい取組として「エコリーダーズスクール」登録を行い、毎学期の校外清掃活動、部室清掃等環境整備の実施、ごみ箱撤去によるごみ削減等に取り組んだ。こうした活動を通じて、自分たちの生活を見直すだけでなく社会の一員としての在り方を考える契機となった。	・生徒の登校時のさわやかな挨拶や、マナーのよさには好感が持てる。主体的な活動が進んでいることは評価できる。 ・悩みをもつ生徒に対し、専門家とも連携したきめ細かな指導・支援を今後ともお願いしたい。	A
	・教育相談体制を整備する。	・生徒が抱える問題を早期に発見するために、アンケートや情報交換会等を実施し、指導に活用する。	4 各学年年4回以上の情報交換会を実施し、指導に活用した。 3 各学年年3回の情報交換会を実施し、指導に活用した。 2 各学年年2回以下の情報交換会を実施し、指導に活用した。 1 各学年とも情報交換会が年1回以下に留まり、指導への十分な活用ができなかった。	4	様々な要因で長期欠席となった生徒に対し、その都度、学年間の連絡、保健室・教育相談との連携、管理職への報告・連絡・相談がきめ細やかに実施された。そのため、共通理解が得られた方針の下で指導・支援を行うことができた。特にSCにアドバイスをいただき、参考にした。		
図書視聴覚	・読書活動を通して、生徒の豊かな心を育てる。	・1、2年生は、年間10冊本を読み、読書ノートを作成し、人間性を磨いていく。	4 80%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 3 60%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 2 40%の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。 1 40%未満の生徒が、年間10冊本を読み、読書ノートを作成した。	4	1、2年生が年間10冊の読書と読書ノートの作成を行い、県読書ノートコンクール優良学校賞を受賞した。 「平成28年度子供読書活動優秀実践校」文部科学大臣表彰を受賞した。	・文部科学大臣賞や読書ノートコンクール優良学校賞など、輝かしい成果は高く評価できる。 ・今後の更なる活動の充実を期待したい。	B
	・学校図書館の環境を整備する。	・学校図書館の環境を整備し、図書の貸出率を上げる。	4 学校図書館の環境を十分に整備し、図書の貸出率が昨年度に比べ向上した。 3 学校図書館の環境整備が80%でき、図書の貸出率が昨年度に比べ向上した。 2 学校図書館の環境整備が60%でき、図書の貸出率が昨年度並みであった。 1 学校図書館の環境整備が不十分であり、図書の貸出率が昨年度より下回った。	3	学校図書館の蔵書を点検し、廃棄作業と未登録本の登録作業を実施した。 昨年度の図書貸出数は830冊であった。今年度は1月16日現在で、745冊である。		

保健体育	・生徒自身が自ら健康管理を実践できるよう、意識高揚を図る。	・毎月生徒保健委員会を開き、健康管理対策の実践や啓発をおこなう。又「保健だより」を発行し、健康に関する情報を必要に応じて提示し、自らの健康に対する意識高揚を図る。	4 毎月、保健委員会開催、「保健だより」等を発行し、意識高揚に努めた。 3 2ヶ月に1回程度、委員会開催、「保健だより」を発行した。 2 3ヶ月に1回程度の委員会開催、「保健だより」の発行に留まった。 1 ほとんど委員会も開かず、形骸的な活動となった。	4 ・保健委員会を頻りに開催し、生徒自らが協議を重ね生徒の健康増進に努めた。自販機清涼飲料水の糖分含有量調査による啓発、う歯治療と健康診断再検査100%に向けた掲示などの「見える化」活動、校内放送を活用した啓発、工夫された保健だよりの定期発行、運動の学習効率への好影響実験、近隣地区の感染症等状況の可視化など、多岐にわたる「実効性のある取組」が主体的に行われた。	・保健委員会の活動実績は他の生徒へも分かりやすい形で示されており、学校全体の意識向上に繋がっていきと期待できる。 ・生徒の活発な委員会活動は小野田高校の特色であり、生徒の主体的な意欲が強く感じられる。	A
	・「環境整美」と「安全管理」の充実を図り、清潔で事故のない環境づくりを推進する。	・整備委員会は「用具点検、清掃状況点検」を、体育委員会は「体育施設用具点検」を、保健委員会は「環境点検」を毎月計画的に実施し、改善策を施すことで年間を通してきれいで安全な環境づくりをめざす。	4 毎月必ず各委員会で「点検」を実施した。 3 2ヶ月に1回点検を実施した。 2 学期に1回点検を実施した。 1 たまにしか点検を実施をすることがなかった。	4 ・3委員会とも活動の活性化が図られ、概ね目標を達成できた。整備委員会は缶・ペットボトル用ごみ箱の削減によるごみ減量を実現した。体育委員会は施設及び用具点検表を作成し安全管理の一助を果した。保健委員会は特にトイレや手洗い場の環境面の改善に向け自分達で当番制を考え尽力した。こうした生徒の主体的活動により顕著な成果が得られた。		
一学年	進路実現に向けた学習習慣の定着と基礎学力の充実を図る。	・家庭学習の習慣の定着を図るために、適切な量と内容の家庭学習課題を年間を通して課す。また、朝学や小テストを活用し、学習意欲の喚起に努める。 ・1学期定期考査前の放課後に自学自習の時間(学びの時間)を設定する。 ・入学早期に、学習ガイダンスを実施し、仮入学時実施のスタディサポートの結果解説、国・数・英の教科別ガイダンスを行う。	4 生徒の40%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 3 生徒の30%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 2 生徒の20%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。 1 生徒の15%以上が、平日の家庭学習時間が2時間以上である。	3 ・10月の進路指導部による調査では、平日2時間以上の学習時間を確保している生徒が全体の36%であった。 ・平均学習時間は平日で1.5時間、休日で2.3時間となっており、十分とは言えない。学習習慣の定着を図り、家庭学習への意欲を高めるためにも、家庭学習課題の提示と指導の充実を図るとともに、生徒の意識改革を促す必要がある。 ・1学期中間、期末考査前に「学びの時間(自学自習の時間)」を予定通り実施した。 ・4/27(水)に「学習ガイダンス」を実施した。ベネッセ講師による講演を行い、また、国・数・英の教科別に学習への取り組み方について指導した。	・1学年において高校生活の円滑なスタートが切れるよう、様々な取組がなされている。 取組の成果を踏まえ、工夫改善に努めて欲しい。	B
二学年	進路実現に向けた学力の定着と伸長を図る。	・朝学小テストを計画的に実施し、それぞれの教科が設定した基準点の未達成者には、追試や課題を課し、学力の定着を図る。 ・進学課外の受講率を向上させ、学年全体として早期に受験体制を整えさせる。 ・2学期後半から3学期にかけて「志望理由書」の作成をさせ、進路目標の早期設定を図る。	4 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が60%以上いた。 3 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が50%以上いた。 2 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が40%以上いた。 1 年間を通して、進学課外を1講座以上受講した者が30%以上いた。 4 1・2月のいずれかの模試において国・数・英のうち1～3教科偏差値55以上の生徒が20%以上いた。 3 1・2月のいずれかの模試において国・数・英のうち1～3教科偏差値55以上の生徒が15%以上いた。 2 1・2月のいずれかの模試において国・数・英のうち1～3教科偏差値55以上の生徒が10%以上いた。 1 1・2月のいずれかの模試において国・数・英のうち1～3教科偏差値55以上の生徒が10%未満であった。	3 ・進学課外を1講座以上受講した者の割合は約55%であった。部活動の中心学年でもあり、受講率が3年間で最も減少する学年ではあるが、例年60～70%程度の受講があるため、3年生になるにあたっての意識改革を強く促したい。 ・直近の模試における偏差値55以上の割合は、国語約32%、数学約12%、英語約13%であった。国語は、一年次からよく健闘しているが、数学・英語の基礎力定着が課題である。 ・9～10月にかけて実施した「志望理由書」作成においては、書き方の基本から内容指導まで長時間をかけて指導した。生徒一人ひとり、自分なりに一生懸命に将来を考え、不明な点は自分で調べて意欲的に取り組んだ。	・2学年での指導が重要であるため、進路意識の向上を図り、第3学年への準備を整えて欲しい。	
三学年	進路実現に向けた受験体制の確立 進路実現に向けた学力の伸長を図る。	・進学課外を充実させるとともに、学習会の設定や自習室の提供など学習環境の充実を図る ・学年団と進路指導部との連携を図るとともに、学年集会や学年だより、個別面談などで刺激を与え、日常的に受験指導をする。 ・授業の充実や模試活用、情報提供を積極的に行い、生徒の学力向上を図る。	4 進学課外の受講率が75%以上であった。 3 進学課外の受講率が70%以上であった。 2 進学課外の受講率が65%以上であった。 1 進学課外の受講率が65%未満であった。 4 状況に応じた受験指導を日常的に行った。 3 状況に応じた受験指導を十分に行った。 2 状況に応じた受験指導をある程度行った。 1 状況に応じた受験指導をあまり行えなかった。 4 国公立大学合格者が35名以上であった。 3 国公立大学合格者が30名以上であった。 2 国公立大学合格者が20名以上であった。 1 国公立大学合格者が20名未満であった。	4 課外受講率は80%近くあり、出席率は、ほぼ100%であった。また、英語・数学の学習会への参加も積極的である。 学年だより、学年集会、個別面談など十分な回数を実施できた。 国公立大学合格者は35名である。難関私立大への合格者も出ている。	・進路実現に向けた取組が計画的に行われており、十分な成果が出ることを期待している。	A
校務運営	開かれた学校づくり 本校のよさを積極的に情報発信する。	学校情報「東西南北」(県教委から報道機関への学校情報提供システム)を活用し、報道機関への情報提供を効果的に行う。 学校Webページの更新を頻りに行う。	4 15回以上情報提供した。 3 10回以上 “ ” 2 8回以上 “ ” 1 7回以下しかできなかった。 4 年間36回以上情報発信できた。(月平均3回程度) 3 “ ” 24回以上 “ ” (“ ” 2回程度) 2 “ ” 12回以上 “ ” (“ ” 1回程度) 1 “ ” 12回未満しか情報発信できなかった。	3 道下美里選手を講師に迎えた「人づくり講演会」や校内からた大会等が大きく報道され、本校の特色ある行事における生徒の生き生きとした姿を発信することができた。 4 各分掌の協力を得て、行事ごとにWebページの更新を迅速かつ頻りに行うことができた。	・地域から信頼される学校づくりをめざして、小野田高校のよさをあらゆる方法で積極的に発信する努力を継続して欲しい。 ・学校運営の課題解決に向けて、協議を重ねて欲しい。	
	業務改善	学校行事等の検討を行い、意見を集約して次年度の計画を作成する。	4 検討の会議を行い、十分な意見調整を尽くした。 3 検討の会議を行い、意見調整を尽くした。 2 検討の会議を行ったが、意見調整が十分とはいえなかった。 1 検討の会議を十分に行えず、意見調整が図れなかった。	2 「保育体験実習」等の教育課程上の位置づけについて、整理することができた。 授業時間数の確保に配慮しつつ、様々な懸案事項を年度末までに整理し、次年度の年間計画を作成する必要がある。		
	学校行事等の検証・改善を図る。					

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

(学習指導)授業アンケート、公開授業等を通して授業改善を進め、教科・学年で指導について担任と教員との連携を図ることができた。二学期末現在、各クラスに存在する欠点をもつ生徒に対し、その解消に向けて学習に取り組むよう指導しており、通知表の改善も行った。朝学や週末、長期休業中の課題を通して、学習時間の確保・学力の伸長を図った。家庭学習時間は、平日・休日ともに十分とは言えず、日頃の積み重ねの重要性を徹底し、その増加が今後の課題である。また、授業公開や、研究授業は、教員の授業力向上に効果があるため、今後も実施していきたい。
(進路指導)進学課外の出席率は、2学期には平均89%まで上昇させることができた。本年度はPTA進路部会と協議し、保護者のニーズを踏まえた内容の保護者研修会を実施することができた。この取組は、今後も継続していきたい。「総合的な学習の時間」を活用した計画的なキャリア教育の取組は、生徒の進路意識向上に資する一定の成果をあげているものと考えられる。
(生徒指導)生徒会、各種委員会など、生徒による主体的な活動の一層の定着が図られた。生徒会を中心として、各種委員会が協力し、学校生活における様々な課題について議論を深め、改善を進めることができた。
(教育相談)配慮が必要な生徒への早期対応を図るため、関係教員によるケース会議を開催し、情報共有や適切な対応に努めた。また、スクールカウンセラーと緊密に連携することで専門的なアドバイスを含めた支援に取り組むことができた。専門機関に繋げるにあたって、SCを通すことで、よりスムーズに動くことができた。
(健康管理)今年度の「生徒保健委員会」の取組によって、生徒同士で健康管理意識を高めるスタイルが定着し始めた。特に「う歯」「眼科」の再健診率・治療率が3年1クラス100%を含め、格段に向上したことは大きな成果であった。 (環境整美・安全点検)年間を通して継続的に整備点検や安全点検等の地道な活動を実施したことで、清潔で事故のない学校環境づくりの目標は十分に達成できた。「生徒整備委員会」「生徒体育委員会」の働きも大きい。
(図書)図書委員会の日常の業務に加え、山陽小野田市中央図書館と連携した取組を推進するとともに、児童文学作家 村中季衣先生を講師とした講演の実施、読書ノートの活用による読書活動の推進を図ることができた。
(開かれた学校づくり)学校Webページの更新は、昨年以上に迅速かつ頻りに行われた。ホームページへのアクセス数も増加しており、文化祭や学校見学会の来校者数も増加している。

7 次年度への改善策

(学習指導)本校の特色を重視し、学習指導と特別活動の調和を図るとともに、入学直後の学習ガイダンス等更なる取組強化が必要である。学習意欲において二極化の傾向がみられ、成績下位層の学習意欲の向上が課題である。中学生減少の中、本校のよさを中学生や保護者にどのようにアピールするかが重要な課題であり、あらゆる機会を通して、学習指導の改善に取り組む姿勢を紹介していく。朝学、小テスト、週末課題の実効性を高め、生徒の学習時間確保、学習習慣の確立が急務である。成績不振者の減少に向け、早めに各教科・学年と協議し、補習・課題のあり方について指導計画を検討する。
(進路指導)課外の受講率や出席率を高め、引き続き生徒の意識向上をめざしたい。また、課外の講座の内容については、変わりつつある大学入試への対応も踏まえた検討が必要である。保護者への進路に関する情報提供の取組については、PTA進路部会との連携を密にし、講演会のみならず保護者・生徒のニーズに合わせた取組を模索したい。また、キャリア教育のうち「総合的な学習の時間」を活用した取組については、生徒の実態等に即して改善していきたい。
(生徒指導)今後も生徒が主体となって考え、活動していく取組の充実により、一層の成長を促したい。他者や地域に広く目を向け、協働する姿勢を育みたい。
(教育相談)生徒に関する課題について、担任等が一人で抱え込むことなく、迅速に情報を共有し組織的に対応できるよう、今後とも早期のケース会議、SCとの連携に努めたい。
(健康管理)(環境整美・安全点検)今年度の各委員会における生徒の主体的活動の成果が上まっているので、今後ともその取組の継続・発展を図るとともに、自分たちの手で自分たちの学校環境を整えるという理念のもと、さらなる主体的な取組を増やしたい。
(図書)図書委員会の主体的な活動のさらなる推進と、読書ノート活用等による地道な読書指導の継続・発展を図る。
(開かれた学校づくり)各種委員会や部活動等による地域と連携した取組の継続・発展を図り、その活動を実効的に情報発信できる体制を更に強化する。